

令和 6 年第 3 回環境審議会 会議後質問・意見一覧

No.	委員	該当資料	意見内容	回答案
1	豎山委員	審議資料 1	第5章分野ごとの方向性 1. 脱炭素行動エネルギー（1）区民 ・現状（問題）への質問と意見 「区内車両台数に占める次世代自動車の割合は約20％」とだけ記載されていますが、普及度等に問題・課題はないのでしょうか？世田谷区の普及割合は全国レベルに達せず、現環境計画の目標も達成されていません。この点は今後の対応にも関わるので、明確に記載しておいた方が良いと思います。	計画素案に記載の「区内車両台数に占める次世代自動車の割合」は、2023年3月（令和4年度）時点の数値であり、現行の環境基本計画の指標における目標値は、令和6年度を目標年度としているため、現時点では達成／未達成の判断はできませんが、ご指摘の次世代自動車の普及も含め、区民の脱炭素行動を進めていくことの後押しを行政が進めていくことを課題だと認識しております。その点については、課題の一つ目「生活の利便性や快適性も高まる、区民にとって魅力的で意義のある脱炭素型ライフスタイルを提示していく必要があります」に含めて、記載しております。
2	豎山委員	審議資料 1	第5章分野ごとの方向性 3. 交通・移動 ・現状（問題）への質問・意見 「次世代自動車の普及は進んでおり～次世代自動車の割合は20％です」と記載されていますが、全国的には新車販売の50％近く、保有台数割合でも25％を超えています。但し世田谷区では全国レベルに未だ達していないので、当面の交通における脱炭素化を進める為に、更に次世代自動車の普及を進めて行く課題があるのでは無いでしょうか？	運輸部門の脱炭素化を進める為に、更に次世代自動車の普及を進めて行くことの必要性は区としても認識しております。いただいたご意見を踏まえ、課題の四つ目「ZEVの利用環境を整備していく必要があります」を「ZEVを含めた次世代自動車の普及のため、利用環境を整備していく必要があります」と修正します。
3	豎山委員	審議資料 1	第5章分野ごとの方向性 3. 交通・移動 ・問題解決に向けた視点への意見 「ZEVは～近い将来の普及が～」と記載されています。中国・欧州（最近変調してきているが）ではその通りかもしれませんが、日本ではZEVの普及は時間が掛かる可能性があり、国もHVを含む次世代自動車の推進で進めています。ZEVの導入のみに限定すると、区として脱炭素（特に家庭）での対応が当面進まない懸念があります。ここは、「ZEVを含む次世代自動車全体の利用促進を図る」とした方が良いと思います。	ご意見の通り記載内容を修正します。
4	豎山委員	審議資料 1	第5章分野ごとの方向性 3. 交通・移動 ・対応の方向性についての意見 ①次世代自動車の更なる普及を図る為に、エンジン車と比較したCO2排出削減への影響、税制面等の優遇措置の理解を広げる必要があります。又、走行区間・距離からZEV／燃料電池車との親和性が高く、運行業者も脱炭素に積極的な、区内バス路線への優先導入も検討する必要があるのでは無いでしょうか？	第5章分野ごとの方向性 3. 交通・移動 「対応の方向性」の2つ目 「徒歩や自転車、公共交通機関による地域の移動、公共交通機関における省エネ車両等の導入を推進していくことにより、移動の脱炭素化の促進を図ります。」の通り、区内バスも含めた公共交通機関において、省エネ車両等の導入を推進していきます。
5	豎山委員	審議資料 1	第5章分野ごとの方向性 3. 交通・移動 ・対応の方向性についての意見 ②ZEVの利用環境整備は必要ですが、区だけで進めても効果は限定的で、国・都・業者と連携して進める必要があるのでは無いでしょうか？	第5章分野ごとの方向性 3. 交通・移動 「対応の方向性」の4つ目 ご意見を踏まえ、「ZEVの普及のため、国や都、事業者と連携して～」と修正させていただきます。
6	豎山委員	審議資料 1	第8章環境行動指針 1. 区民についての意見 現在のZEVの中心である電気自動車とHVを比較すると、購入価格・燃料価格・運行の安定性等において、ZEVが劣後しています。又、日本全体の電力源を見ても当面は化石燃料に依存します。この点を考慮すると、ZEVを利用するだけ記載するのは現実的では無いと思います。ZEVを含む次世代自動車を利用するの方が良いと思います。	ご意見の通り記載内容を修正します。